

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
3月	1,474	963	782	12	0	3,231	1,038	29	190	77	229	876	5,670
累計	16,090	12,148	9,964	153	5	38,360	11,921	177	2,489	1,145	2,265	10,999	67,356

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

## 📄 今月のレファレンス記録票から

分類	質問と内容
----	-------

I/B1 江戸時代の市川の農村における牛馬の数と利用に関する資料を探している。

『市川市史 第二巻』(市川市 1974)の近世編「第七章村民の生活 第三節生活の具体相 一農業生産の様相」に「馬」として、牛馬に関する記述がある。また同章中の「第一節家と村 一家」中の「宝暦六年大野村の家」には、「大野村家並御見分留帳」による「宝暦6年(1756)大野村家族人数別戸数など」とする統計が収録されており、この統計に馬持ちの家の数も記載されている。

I/D8 市川市の方言について書かれた資料を所蔵しているか。また所蔵がない資料でも市川市の方言を扱った資料があればタイトルを知りたい。

当館所蔵資料としては『市川市史 第四巻』(市川市 1975)がある。同書文化編には、「第五章市川市の方言」として「関東方言における市川方言の位置」と市川市が行った調査結果とともにまとめた「市川市内代表的地点の方言音の記述」及び「市川市及び周辺地域における方言分布」の記載があり、方言分布図の掲載もある。この資料からは、市川市内でも北部と南部など地域によりアクセントや単語が異なることがわかる。

また昭和53年度に市川市北部(旧国分村、大柏村)の方言調査をまとめた『市川市北部地域の方言調査 市川市方言調査資料(2)』(市川市教育委員会 1979)も所蔵している。なお、『市川市北部地域の方言調査 市川市方言調査資料(1)』については所蔵がなく、前述資料の前書きに「このことは、『押切地区座談会記録』としてまとめましたが…」との記述があるので、『押切地区座談会記録』が市川市方言調査資料(1)の資料名ではないかと推察されたが、資料の存在を確認することができなかった。

当館での所蔵がない資料としては、国会図書館所蔵の論文「市川市北部の方言」(万慶子/著)(『国語と教育 2号』(千葉大学教育学部分校国語研究会 1951) p25~26)があることが、NDL-OPACで確認できた。

C10/S2 JR 西船橋駅はいつできたのかが書いてある本を探している。

『千葉県の鉄道史』(千葉県企画部交通計画課 1980)、『武蔵野線まるごと探見』(三好好三、垣本泰宏/著 JTB パブリッシング 2010)に、西船橋駅は国鉄総武本線の旅客駅として1958(昭和33)年11月10日に開業した旨の記述があったため、これを提供した。

210.7 ノモンハン事件と張鼓峰事件の軍関係の資料を見たい。みすず書房の『現代史資料』に収録されているらしいと聞いたが、探し方がわからない。

みすず書房の『現代史資料』は全45巻と別巻1の計46冊からなっており、索引は『別巻1』(みすず書房 1980)に「全巻目次」「収録資料年表」「人名索引」という形で掲載されている。そこで、「収録資料年表」でノモンハン事件の起こった1939(昭和14)年と張鼓峰事件の起こった1938(昭和13)年の情報を確認したところ、ともに本資料が『第10巻 日中戦争3』(みすず書房 1978)に、関連資料が『第41巻 マス・メディア統制2』(みすず書房 1985)に収録されていることが分かった。

498.5 「ヌカレオチド」という粉ミルクの成分について知りたい。

ヌカレオチドという成分名でさまざまな辞典を探してみたが、該当するものが見当たらなかったということだったので、Googleで検索したところ、「ヌクレオチド」(nucleotide)がヒット。成分名が違っていたことが判明。ヌクレオチドについては、『生物学辞典』(石川統／編集 東京化学同人 2010)に専門的な記述が、『総合栄養学事典』(吉川春寿／編 同文書院 1990)『食品安全性辞典』(小野宏、斎藤行生／ほか監修 共立出版 2010)などに入門的な記述があった。

721.8 「笠森観音」(千葉県長生郡長南町)が描かれている広重の江戸名所百景がみたい。

Googleで「笠森観音 広重」というワード検索をしたところ、笠森観音～公式サイト～(<http://kasamori.jp>)がヒット。寺宝として、二世安藤広重筆浮世絵「諸国名所百景 上総笠盛寺岩作り観音」が画像入りで紹介されていたため、「江戸名所百景」ではなく、「諸国名所百景」であることが判明。国立国会図書館のデジタル化資料(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1309801>)でも、同作が公開されておりインターネット上で閲覧することができた。

しかし当館所蔵の広重関連の資料には同作の掲載なし。郷土資料コーナーで収集している「千葉県観光案内パンフレット」ファイル(C10/C1)に、笠森観音のパンフレットがあり、同作の写真が掲載されていたため、このパンフレットを提供した。

759 人形師大野弁吉についての資料を探している。人物、作品どんなものでも構わない。

名前と人形師であることが分かっているだけで、その他の情報はないということだったので、「大野弁吉」をキーワードに資料検索をしたところ『からくり師大野弁吉とその時代 技術文化と地域社会』(本康宏史／著 岩田書院 2007)という資料があることが判明したが、市内図書館には所蔵なし。

このため、Googleで「大野弁吉」を検索したところ、江戸時代の発明家であり、からくり人形、写真機、望遠鏡、発火器など数々の作品を製造したと伝えられていることが分かった。そこで、「からくり人形」をキーワードに所蔵検索。このうち『からくり ものと人間の文化史 3』(立川昭二／著 法政大学出版局 1969)『からくり人形の文化誌』(高梨生馬／著 学芸書林 1990)『甦えるからくり』(立川昭二／著 NTT出版 1994)『図説からくり ふくろうの本』(立川昭二／ほか著 河出書房新社 2002)に簡単な人物紹介と作品の写真が掲載されていることが確認できたため、これらを提供した。

📖 **G I V E U P !** 御存じの方はご教授下さい。

I/B1 勝海舟(1823(文政 6)年－1899(明治 32)年)が国会議事堂を市川市国府台に建設しようという説があると聞いた。それが本当なのか根拠が知りたい。

「ウィキペディア(Wikipedia)」の市川市の項に「幕末、国府台地区は勝海舟によって国会議事堂の選定地として考慮に入れられたこともある。」との記述があった。国会議事堂は1987(明治 20)年に現在地への建築予定が決定しているため、幕末からこの時期までの出来事であると考え当館所蔵の『勝海舟全集』(講談社 1976-1994)、『幕末の市川』(市立市川歴史博物館 2003)、『勝海舟』(松浦玲／著 筑摩書房 2010)、『勝海舟のすべて』(小西四郎／編 新人物往来社 1985)、『勝海舟』(石井孝／著 吉川弘文社 1986)、『それからの海舟』(半藤一利／著 筑摩書房 2003)、『明治の海舟とアジア』(松浦玲／著 岩波書店 1987)と千葉県立中央図書館所蔵の『勝海舟と幕末明治』(松浦玲／著 講談社 1973)、『勝海舟言行録』(秦作三／著 新人物往来社 1974)には、このことについての記載を発見できなかった。また、インターネットで閲覧可能な国立国会図書館の資料「国立国会図書館所蔵 勝海舟文書について 付・勝海舟文書仮目録」『参考書誌研究』第10号(1974. 11)及び「勝海舟関係文書目録」を見たが書名からは判断することができなかった。

同時に市川歴史博物館に問い合わせたところ、「その話は聞いたことがあるが、根拠は不明」との回答だったため、国立国会図書館へレファレンスを依頼したところ「調査及び研究の代行と認められる調査、合理的検索手段のない調査には応じられません。」とする回答と、国会図書館憲政資料室所蔵の勝海舟関係文書の検索手段等についての案内を得た。検索手段として、上記 2 つの目録の他に「憲政資料室収集文書目録」の案内を受けたが、こちらの目録からも勝海舟が国会議事堂について言及したと思われる資料を探すことはできなかった。